

1 男女共学化に関する施策の検証

(1) 男女共学化の当初の目的は何だったのか。

施策	施策の目的
男女共学化	○県民の負担で設置されている公立高校において性差による入学制限を撤廃する。 ○高校生という多感な時期に、男女が共に学び、理解し、成長し合う場を日常的に設ける。 出典：県立高校将来構想（平成13年3月）

(2) 男女共学化に向けて、教育庁及び各学校の取組は適切に実施されたか。

施策	検証のチェックポイント	検証データ(案)		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
男女共学化	①共学化に向けた施設・設備の整備は適切だったか。	○施設整備の状況		●学校施設・設備に対する生徒の満足度
	②共学化に向けた指導体制の整備は適切だったか。	○共学準備校への支援の状況	○共学校の教育目標の検討状況 ○共学化に向けた職員研修の実施状況 ○共学化に向けた校則の整備状況	●中途退学率、不登校率 ●いじめの件数 ○中途退学及び不登校の理由 ●教育相談件数 ●教育相談に対する生徒の満足度
	③共学化に向けた教育相談の体制の整備は適切だったか。	○教育相談の体制整備の状況		●教育相談に対する生徒の満足度
	④生徒の学校選択のために十分な情報が提供されたか。	○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況	○オープンスクールの実績 ○中学校指導担当への周知状況	○オープンスクールへの参加の有無・満足度 ○県教委・高校・中学校からの情報提供に対する満足度

(3) 男女共学化後において、教育庁及び各学校の取組は適切に実施されているか。

施策	検証のチェックポイント	検証データ(案)		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
男女共学化	⑤共学化に対応した学校経営が行われているか。		◎教育目標 ◎学校の特色づくりの状況	
	⑥共学化に対応した指導体制が整備されているか。	●教員の男女比	○（共学化により生徒層の変化があった場合）その対応状況	○進路希望の状況 ○進路の状況 ●学力テストの成績 ●授業、進路指導に対する満足度 ●教育相談に対する生徒の満足度（再）
	⑦教育相談の体制は整備されているか。	○教育相談の体制整備の状況（再）		●授業・進路指導に対する生徒の満足度（再） ●学校行事、部活動、生徒会活動に対する生徒の満足度（男女別）
	⑧男女が共に学び、理解し、成長し合う場が日常的に設けられているか。		●クラス編成の状況	
	⑨男女が共に学ぶ環境を生かした取組が実施されているか。		◎学校行事の実施状況 ○部活動の実施状況 ○進路指導の実施状況	●授業・進路指導に対する生徒の満足度（再） ●学校行事、部活動、生徒会活動に対する生徒の満足度（男女別）
	⑩生徒の学校選択のために十分な情報が提供されているか。	○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況（再）	○オープンスクールの実績（再） ○中学校指導担当への周知状況（再）	○オープンスクールへの参加の有無・満足度（再） ○県教委・高校・中学校からの情報提供に対する満足度（再）

(4) 施策が目指した教育活動が展開されているか。弊害は生じていないか。

施策	検証のチェックポイント	検証データ(案)		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
男女共学化	⑪生徒の学校選択の機会は拡大しているか。	●共学化の実施状況	◎学校の特色づくりの状況（再）	●生徒数（男女構成比） ●一般入試出願倍率 ●学校の特色づくりに対する生徒の満足度 ●授業・進路指導に対する生徒の満足度（再）
	⑫学習面での制約はないか。		○性別を理由とした科目選択の制限の有無	●授業・進路指導に対する生徒の満足度（再）
	⑬学校行事、部活動、生徒会活動等における制約はないか。		●男女別部活動数	●部活動参加者数（男女別） ○生徒会役員、学級委員、部活動部長の男女比 ●学校行事、部活動、生徒会活動に対する生徒の満足度（再）
	⑭学校適応、生徒指導上の弊害は生じていないか。			●中途退学率、不登校率（再） ●いじめの件数（再） ○中途退学及び不登校の理由（再）
	⑮共学後の伝統・校風に対する生徒の不満はないか。			●学校行事に対する生徒の満足度（再） ●学校の特色づくりに対する生徒の満足度（再）
	⑯特定の学校への志願が集中していないか。			●一般入試出願倍率（再）

●印は第7回検証部会で、◎印は第8回検証部会で扱うデータ。○印のデータは、検証を進める中で、適時に、学校への質問紙調査、現地調査等により収集するデータ。

2. 全県一学区化に関する施策の検証

(1) 全県一学区化の当初の目的は何だったのか。

施策	施策の目的
全県一学区化	○生徒の学校選択の機会を拡大する。 出典: 県立高等学校通学区見直し方針(平成19年3月)

(2) 全県一学区化に向けて、教育庁及び各学校の取組は適切に実施されたか。

施策	検証のチェックポイント	検証データ(案)		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
全県一学区化	①各校の特色づくりが進められたか。	○各校への支援施策の状況	○教育目標 ○学校の特色づくりの状況 ○カリキュラムの編成状況	●一般入試出願倍率 ○進路希望の状況 ●学力テストの成績 ○授業・進路指導に対する生徒の満足度
	②生徒の学校選択のために十分な情報が提供されたか。	○各校への支援施策の状況 ○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況	○オープンスクールの実績 ○中学校指導担当への周知状況	○オープンスクールへの参加の有無・満足度 ○県教委・高校・中学校からの情報提供に対する満足度

(3) 全県一学区化後において、教育庁及び各学校の取組は適切に実施されているか。

施策	検証のチェックポイント	検証データ(案)		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
全県一学区化	③各校の特色づくりが進められているか。	○各校への支援施策の状況(再)	○教育目標(再) ○学校の特色づくりの状況(再) ○カリキュラムの編成状況(再) ○各地域の進路指導拠点校の学力向上に向けた取組の実施状況	●一般入試出願倍率(再) ○授業・進路指導に対する生徒の満足度(再) ●学力テストの成績(再) ○進路希望の状況(再)
	④生徒の学校選択のために十分な情報が提供されているか。	○制度変更の周知状況 ○各校への支援施策の状況(再) ○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況(再)	○オープンスクールの実績(再) ○中学校指導担当への周知状況(再)	○オープンスクールへの参加の有無・満足度(再) ○県教委・高校・中学校からの情報提供に対する満足度(再)

(4) 施策が目指した教育活動が展開されているか。弊害は生じていないか。

施策	検証のチェックポイント	検証データ(案)		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
全県一学区化	⑤生徒の学校選択の機会が拡大しているか。	●全県一学区化の実施状況	○学校の特色づくりの状況(再)	●生徒の出身地区 ●専門学科(職業系以外)への一般入試出願倍率 ○学校の特色づくりに対する生徒の満足度
	⑥学習環境は向上しているか。		○各地域の進路指導拠点校の学力向上に向けた取組の実施状況(再)	●学力テストの成績(再) ○授業・進路指導に対する生徒の満足度(再)
	⑦学校行事、部活動、生徒会活動等における制約はないか。			○部活動参加者数 ○部活動、生徒会活動に対する生徒の満足度 ●通学方法
	⑧特定地区・学校への志願が集中していないか。			●一般入試出願倍率(再)

●印は第7回検証部会で、◎印は第8回検証部会で扱うデータ。○印のデータは、検証を進める中で、適時に、学校への質問紙調査、現地調査等により収集するデータ。

3. 共学化・一学区化に関する施策の実施による教育効果の検証

(1) 各学校が目指すべき教育活動が展開されているか。(中間アウトカム)

施策	検証のチェックポイント(現段階でのイメージ)	検証データ(案)		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
男女共学化 全県一学区化	基本的な生活習慣が定着しているか。	○学校の取組に対する支援施策の実施状況	○生活指導の実施状況	○学校以外の時間の活動内容 ○遅刻、早退、欠席の状況 ○朝食を毎日とる生徒の割合
	人間関係を構築し、協力し合うことができるか。		○グループ学習の実施状況 ○部活動、学校行事の実施状況 ○ホームルーム活動の実施状況	●部活動参加者数(再)
	規範意識が育成されているか。		○倫理・道徳に関する教育活動の実施状況 ○情報モラル、環境等に関する教育活動の実施状況	○特別指導件数・理由 ●いじめの件数(再)
	学力が定着しているか。		○学力定着・向上に向けた取組の内容	○学習動機 ○授業が分かると回答する生徒の割合 ●学力テストの成績(再) ○資格試験・技能検定試験の合格者数
	進路・将来に対する意欲が育成されているか。		○志教育の実施状況 ○職業教育の実施状況 ○進路指導の実施状況(再)	○進路希望の状況(再) ○進路達成意欲の状況 ○進路希望達成率
	地域社会や国際社会に関わる意欲が育成されているか。		○学校外の教育資源の活用状況	○地域活動、ボランティア活動への参加状況

(2) 県立高校将来構想が目指す人づくりがされているか。(最終アウトカム)

前構想 (H13～H22)	主体的に考え生きる人づくり	○変化の激しいモデルなき時代において、生涯にわたって学び続ける意欲を育成する。
	人々と支え合い生きる人づくり	○多様な価値観を認め合う時代において、ゆたかな創造性と自己責任倫理を育成する。
	地球社会を生きる人づくり	○人間と自然の融合を図る時代において、広い視野と寛容性を育成する。
現構想 (H23～H32)	主体的に生き抜く力の育成	○基礎となる知識や技能を定着させる。 ○基礎的知識・技能を活用していく力を習得させる。 ○自らが果たすべき役割を認識し、主体性をもって自律的に行動できる姿勢を育成する。
	人とかかわる力の育成	○自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なる人を尊重しながら、目標に向けて人と協力できるコミュニケーション能力を育成する。 ○能動的に人との関係を築いていく力を育成する。 ○協調性や柔軟性を育成する。